行進（Precession）
---アンノ 2 世の葬送行進（Funeral Procession）を見る---

1. アンノ 2 世の葬送行進
1-1. アンノ 2 世の人となり。
1-2. アンノ 2 世の時代背景。
1-3. 行進順路。
2. 聖遺櫃の行進
2-1. 歴史的背景。
2-2. 彫刻に見る行進。
2-3. 書物に見る行進。
3. 参考文献

。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。

1. Anno2 世の葬送行進

1-1. Anno2 世の生い立ち。

1010 年頃の生まれ、1075 年 12 月 4 日死去。

神聖ローマ帝国皇帝のハインリッヒ 3 世の悔悛司祭となり、1056 年にケルン大司教に就任している。ハインリッヒ 3 世が 1056 年に没し、幼いハインリッヒ 4 世[1] が 6 歳で即位すると、皇妃アグネス（Agnes）が摂政となりアウグスブルグ（Augsburg）の司教を中心に据えて国政を行った。1062 年に Anno2 世は当時 11 歳のハインリッヒ 4 世を皇妃のもとから隔離し、ハンブルグーブレーメン（Hamburg-Bremen）の大司教であったアダルベルト（Adalbert）[2]、マインツ（Mainz）の大司教[3] ジーグフリード（Siegfred）1 世と共にハインリッヒ 4 世の教育を担当すると共に、国政を取り仕切った。

1065 年にハインリッヒ 4 世は自身で政治を行うことを宣言し、余に厳格で潔癖な Anno2 世はハインリッヒ 4 世にうとまれ、帝国内で孤立することになる。Anno2 世は新たにイングランド王となったウィリアム征服王に支援を求めているが、その後聖職に専念する。

なお、死後、1183 年にローマ法王ルチウス 3 世（Lucius III）[4] により聖列された。

1-2. 時代背景（叙任権闘争を主体に）

962 年ザクセン王朝[5] の第 2 代オットー 1 世は 2 回目のイタリア遠征を行った際、法王ヨハンネス 12 世から帝冠を受け、ゲルマン人とローマ人の皇帝として、ローマ皇帝権が復活した。1024 年ハインリヒ 2 世の死去により、ザクセン王朝が絶え、新たにコンラート 2 世により、ザリエル王朝[6] が創められた。

10 世紀に創設されたクリュニー修道会[7] は 11 世紀前半に一大修道会を作り上げていたが、コンラート 2 世を継いだハインリヒ 3 世は教会改革を推進し、一族のトゥールの司教を、ローマ法王レオ 9 世としてローマに送り込むことで、法王庁史に一大転機をもたらすこととなった。即ち、レオ 9 世はクリュニー修道院出身者を多数法王

---

[1] ハインリッヒ 4 世：（1050-1106）。

[2] Adalbert of Hamburg-Bremen：(c.1000-1072)。1046 年にはハインリッヒ 3 世と共にローマに巡礼している。ハインリッヒ 4 世の下で Anno 2 世と国政を担ったが、対立して追放されている。

[3] Mainz の大司教はドイツ教会の主座を占める大司教である。

[4] Lucius III。法王として在位；1181-1185 年。

[5] ザクセン王朝。歴代の王は以下の通り。ハインリッヒ 1 世（919-939）。オットー 1 世(936-973)。オットー 2 世（973-983）。オットー 3 世（983-1002）。ハインリッヒ 2 世（1002-1024）。

[6] ザリエル王朝。歴代の王は以下の通り。コンラート 2 世（1024-1039）。ハインリッヒ 3 世（1039-1056）。ハインリッヒ 4 世（1056-1106）。ハインリッヒ 5 世（1106-1125）。

[7] クリュニー修道会。910 年にブルゴーニュのクリュニーに創設された。

庁に導入し、聖職売買[8] の悪弊を根絶することを使命とした。Anno2 世がケルン大司教に就任して以降死去するまでの 19 年間にローマ法王は 5 人が即位し、しかも一時法王が並立する時代も有った。[9]
当時、皇帝権は神に由来するものであり、地上におけるキリストの代理人として、ドイツ教会を統括すると共に、必要ならば、法王に命令を与えることが皇帝の義務であると考えられていた。しかしながら聖職売買の禁止を推し進めていくことは、皇帝による法王支配の否定にと繋がることでもあった。1059 年にはニコラウス 2 世により、法王選出規定が改定され、法王は枢機卿により選出されるべきものとなった。これにより、皇帝を含めた俗権の法王位への干渉が一切排除されることが意図されるようになる。かくてドイツ皇帝により始められた教会改革運動は法王から反撃を受けることとなった。グレゴリウス 7 世は 1075 年ローマに四旬節宗教会議を開催し、教会聖職への叙任を世俗人から受けることを禁止。『法王教書』で法王の権威が神に由来すること。聖職叙任権が法王に帰属すること。法王は皇帝おも支配すべきであることを主張した。
ハインリヒ 4 世が親政を始めた時、王領地はすでに聖俗貴族に浸食されており、1075 年にはミラノ大司教の叙任を巡り、皇帝と法王の対立は封建制度確立期における歴史の主導権をどちらが握るかの一大決戦となった。皇帝による法王の退位要求に対し、法王は皇帝破門で応酬し、南西ドイツ貴族の内乱がからんで、1077 年皇帝は法王に赦しを乞うと言う、西洋史上最大のドラマが起きた。
1-3. 葬送行進の日程とルート [10]
Anno2 世の葬送行進として、ケルン市内の 11 箇所の教会を巡回した背景には、Anno 2 世が巡回した教会の建設や修復に何らかの関係が有ったことが挙げられている。[11] しかしながら、11 世紀のケルンの地図によると、[12] 聖チェチリン、 聖ゲオルグ、の 2 箇所の教会が記載されていない[13] ことから、Anno2 世の葬送行進は当時ケルンに存在した全ての教会を巡回したとも考えられる。
教会の修復関連の詳細な史料は不十分であるが、Anno2 世が直接建立したとされる修道院としては、Anno2 世が埋葬された、ミカエル修道院（Michael Abbey）を挙げることができる。その他には、1072 年建立のグラフシャフト修道院（Grafschaft Abbey）とアフリゲン修道院（Affligem Abbey）が挙げられる。アフリゲン修道院は最初は 1062 年に 6 人の隠修士により建立されたとされるが、公式には Anno 2 世が建立したことになっている。[14]
Anno 2 世は 12 月 4 日にミカエル修道院で死去し、当日ケルン大聖堂[15] に遺体が移送され、翌日から葬送行進が始まっている。
なお、ケルン大聖堂[16]には3人のマギ[17] の聖遺骨が納められた聖遺櫃が収められている。この聖遺櫃はミラノ

---

[8] 聖職売買。魔術使シモンの名にちなみ、シモニアと呼ばれた。
[9] 法王。当時の歴代法王は以下の通り。クレメンス 2 世(1046～47)。ベネディクトゥス 9 世(1047～48)。ダマスス 2 世（1048）。レオ 9 世（1049～54）。ウィクトゥス 2 世（1055～57）。ステファヌス 10 世(1057～58)。スニコラウス 2 世（1058～61）。アレクサンデル 2 世（1061～73）。グレゴリウス 7 世(1073～85)。 この間、ベネディクトゥス 10 世(1058～59)。ホノリウス 2 世（1061～64）。が併存した。
[10] Sorah Blick and Rite Tekippe, ed., *Art and Architecture of Late Medieval Pilgrimage in Northern Europe and the British Isls,* Brill, 2005. Fig.337。
[11] Sorah Blick and Rite Tekippe, *op.,cit.,*
[12] Jacques Stiennon et Rita Lejeune, ed., *Plan De Cologne Au 11e Siecle, Rhine-Meuse Art et Civilization 800-1400,* Cologne/Bruxelles, 1972.
[13] なお、ケルン市に在るロマネスク聖堂が発行する案内では、ケルン市内に在るロマネスク聖堂として、 Maria in Lysirchen 聖堂が加えられ、合計 12 の聖堂が紹介されているが、当該聖堂も上記注 12 の地図には記載されていない。
[14] Sorah Blick and Rite Tekippe, *op.,cit.,*
[15] Cathedral of Cologne。；St.Peter's。
[16] 1164 年に Relics of the Magi をケルンに移送した後、ケルンは多くの巡礼者が訪問する巡礼の地となった。なお、12 世紀にはスペインの Compostela (St.James), イタリアの Bari (St.Nicholas), イングランドの Canterbury (St. Thomas Beckett), フランスの Vezelay が巡礼地となった。

を占領した神聖ローマ帝国皇帝ﾊﾞﾙﾊﾞﾛｯｻが戦利品の一つとしてﾐﾗﾉ[18]から1164年にｹﾙﾝに移送させたと言われる 。
12月5日にｹﾙﾝ大聖堂を出発。その日のうちに①聖ﾏｰﾃｨﾝ（St. Martin）教会に到着し、一夜を過ごす。翌6日に聖ﾏｰﾃｨﾝ教会を出立し、②聖母ﾏﾘｱ・ｲﾝ・ｶﾋﾟﾄﾙ（St. Maria im Kapitol）教会、③聖ﾁｪﾁﾘﾝ（St. Cacilien）教会を経て、④聖ｹﾞｵﾙｸﾞ（St. Georg）教会に到着。一夜を過ごす。翌7日に聖ｹﾞｵﾙｸﾞ教会を出立し、⑤聖ｾｳﾞｪﾘﾝ（St. Severin）教会、⑥聖ﾊﾟﾝﾀﾚｵﾝ（St. Pantaleon）教会、⑦聖ｱﾎﾟｽﾃﾙﾝ（St. Aposteln） 教会を経て、⑧聖ｹﾞﾚｵﾝ（St. Gereon）教会に到着。一夜を過ごす。翌8日聖ｹﾞﾚｵﾝ教会を出立し、⑨聖ｱﾝﾄﾞﾚｱ教会、⑩聖ｳﾙｽﾗ（St. Ursula）教会、⑪聖ｸﾆﾍﾞﾙﾄ（St. Kunibert）教会を経て、ｹﾙﾝ大聖堂に到着した。[19]
更に、翌 9 日にｹﾙﾝ大聖堂を出発。ﾗｲﾝ川を渡り、東岸の聖ﾍﾆﾍﾞﾙﾄ（St. Henibert）教会に入り、その翌日 10 日にｼﾞｰｸﾞﾌﾞﾙｸﾞ（Siegburg）に在るﾐｶｴﾙ修道院に戻り、埋葬されている。
以上より、ｹﾙﾝ大聖堂を出発してｹﾙﾝ大聖堂に戻るまで、葬送行進に要した日数は 3 日間であり、距離にして約 9 ｷﾛﾒｰﾀｰ。11 箇所の教会を巡回したことになる。
一日目の葬送行進距離は、聖ﾏｰﾃｨﾝ教会までなので、約 600 ﾒｰﾀｰであった。2 日目に聖ﾏｰﾃｨﾝ教会を出てから聖ｹﾞｵﾙｸﾞ教会までは約 2 ｷﾛﾒｰﾀｰ、3 日目の聖ｹﾞｵﾙｸﾞ教会から聖ｹﾞﾚｵﾝ教会までは約4ｷﾛﾒｰﾀｰ、4 日目の聖ｹﾞﾚｵﾝ教会からｹﾙﾝ大聖堂までは約 2.5 ｷﾛﾒｰﾀｰと、行進した日により距離には差がみられる。また、3箇所の教会が宿泊教会として選ばれた背景は不明である。
この葬送行進が実施された当時、ｹﾙﾝの町は城壁で包囲されていたが、その城壁の中に在った教会はｹﾙﾝ大聖堂の他には聖ﾏﾘｱ・ｲﾝ・ｶﾋﾟﾄﾙ教会、聖ﾁｪﾁﾘﾝ教会の 2 箇所のみだったと推定され、それ以外の教会は他の教会との距離の遠近に関わらず、全てが城壁の外に存在していた。一番南にある聖ｾｳﾞｪﾘﾝ教会はｾｳﾞｪﾘﾝｽﾀｰ（Severinstor）と呼ばれる城門に近く、1180 年に建設された城壁の遺構の一部が現在でも見られることから判るとおり、ｹﾙ大聖堂からは直線距離でも 2 キロ以上離れていた。
すでに述べた最初の宿泊場所であった聖ﾏｰﾃｨﾝ教会はｹﾙﾝ大聖堂からは近いが、ﾏﾙｸﾄ（Markt）広場と呼ばれる広場の外側に位置しており、現在ではﾗｲﾝ川との間に建設されているが、教会が建設された当時はﾗｲﾝ川の中の島に在った。聖ｱﾎﾟｽﾃﾙﾝ教会は聖ﾁｪﾁﾘﾝ教会からわずか 400 ﾒｰﾀｰ程しか離れていないが、現在ﾉｲﾏﾙｸﾄ（Neumarkt）広場と呼ばれる広場の外側に存在し、城壁の外側に位置していた。ｹﾙﾝ大聖堂に隣接しているとも言える、聖ｱﾝﾄﾞﾚｱ教会はｹﾙﾝ大聖堂からわずか 200 ﾒｰﾀｰしか離れていないが、最初に建設された城壁の外側に存在していた。なお、町の拡大に伴い、1180 年に建設された城壁では上記の教会の全てが城壁で包囲されることとなった。

2. 聖遺櫃の行進

2-1. 歴史的背景。

実際に葬送行進が行われた状況を示す図像例等は多くは残っておらず、Anno2 世の葬送行進がどのように遂行されたのか、推測するしかない。しかしながら、その数少ない例の中で、Anno2 世の没した年に近い

---

[17] Jasper, Melchyor, Balthaser の 3 人。
C. Horstmann,ed., *The Three Kings of Cologne, Early English Text Society Original Series,1886,* Kraus Reprint Co., 1975. pp.130-34.では Jasper の遺体は Nestorines が Egrisoulla に移葬されていたのを、後者 2 名の遺体は Patriarch Thomas と Prester John により入手され、Constantin 帝の母 St.Helena が一つの聖櫃に入れてｺﾝｽﾀﾝﾃｨﾉｰﾌﾟﾙの St. Sophia 聖堂に移葬した。
なお荊の冠も同様に埋葬された。その後 1239 年に荊の冠はﾌﾗﾝｽ王 Louis9 世に与えられた。

[18] ｱﾚｸｼｳｽ帝(1081-1118)が 3 人の聖遺骨をｺﾝｽﾀﾝﾃｨﾉｰﾌﾟﾙで発見し、その後ﾏﾆｭｴﾙ帝(1143-1190)の時代に後にﾐﾗﾉの大司教になる Eustorgius によりﾐﾗﾉの St.Eustorgio に移送された。皇帝との戦闘の際に聖遺骨は Asso が自身の宮殿に避難させていたが、ｹﾙﾝの大司教ﾗｲﾅﾙﾄﾞ（Rainald of Dassel）が Asso の生命の保障をすることで、ｹﾙﾝに移送された。Shrine の大きさは、H:1.53m, D:1.1m, L:2.2m。

[19] 各教会の場所に関しては現在のｹﾙﾝ市の地図を参照。城壁の位置に関しては参考書籍の地図参照。

1066 年に逝去したｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞのｴﾄﾞﾜｰﾄﾞ証聖王の葬儀の様子をﾊﾞｲｭｰのﾀﾋﾟｽﾄﾘｰ [20] に見ることができる。そこでは死後、経帷子に包まれた王が十字架の付いた架台に載せられ、前後に 4 名の従者に担がれて埋葬教会に向かっている様子が描かれている。
また時代は下るが、16 **世紀の聖ﾗﾝﾊﾞｰﾄ(St Lambert)の聖遺櫃の浮き彫りには聖ﾗﾝﾊﾞｰﾄが殉教した後の葬送行進の長い行列が見られ、11 世紀に実際に行われた葬送行進の状況を推測することができる** [21] 。
葬送行進は聖遺櫃の行進に近いものが有ると推測でき、以下聖遺櫃の行進を参考に掲げる。
聖遺櫃の行進の起源を見ると、聖人と聖遺物からの奇蹟を求める民衆の要求が強く、その時代の要請に応える形で、法王ｸﾞﾚｺﾞﾘｳｽ[22]により制度として創出された。法王ｸﾞﾚｺﾞﾘｳｽは、その行進に全聖職者の参加を求め、多くの民衆がその行列に従った。[23] なお、ｶﾛﾘﾝｸﾞ王朝(751-843)は、聖堂を建築する際には、聖堂における儀式の中心となる祭壇の内部か下方に、聖遺物が収納されていることを義務付けていた。従って、聖遺物が無いと聖堂として機能することができなかったので、聖遺物の蒐集が不可欠となり、その存在を民衆に誇示することも必要であった。[24] このような背景の下、聖遺櫃の行進が行われることとなった。
2-2. 彫刻に見られるﾚﾘｰﾌ。
ﾌﾗﾝｽのｱﾐｱﾝ聖堂の正面には聖ﾌｨﾙﾐﾝ[25] の聖遺櫃を 4 人以上の人物で担ぐ浮き彫りが見られる。聖堂内にも 6 人が聖遺櫃を担い、その行進を大勢の聖職者や民衆が取り囲む浮彫が見られる。また、南翼のﾃｨﾝﾊﾟﾇﾑに見られる聖ｵﾙの移送の浮き彫りでは、二人が聖ｵﾙの聖遺物箱を担ぎ、その下に松葉杖を抱えた足を病む者が奇蹟を求めて聖遺櫃に触れようとしている姿が見られる。
ｻﾝﾍﾞﾉｱ修道院の北面のﾃｨﾝﾊﾟﾅﾑにも聖ﾍﾞﾈﾃﾞｨｸﾄの聖遺櫃の行進のﾚﾘｰﾌを見ることができる。
2-3. 書物に見られる行進。
1220 年に残る聖母ﾏﾘｱの行進図では、4 人が聖母の彫像を担い、その後ろに聖職者が従っている。これは、聖母ﾏﾘｱの庇護により町が疫病(ﾍﾟｽﾄ)から救われたことに感謝して聖母ﾏﾘｱ像を担い行進したことが判る。[26]
1540 年のﾊﾞﾝﾍﾞﾙｸﾞにおける行進では 10 人もの大勢が大きな聖遺櫃を担っており、前後に大勢の聖職者や有力者が行進しているのが見られる。　＜調べる＞
ｷﾞﾘｼｬのｱﾄｽ山にある修道院に残る聖ﾖﾊﾈｸﾘｿｽﾄﾑの移送。＜調べる＞
なお、このような行進の原点としては、ローマの時代紀元前 204 年にｶﾙﾀｺﾞとの戦争で、ｲﾀﾞ(Ida)山からｼﾍﾞｰﾙの像[27]をローマに搬入するようにとのｼﾋﾞﾗの書[28] が予言し、ｽｺﾋﾟｵﾅｼｶ(Scopio Nascica)がｵｽﾃｨｱ(Ostia)で像を受け取りローマに運びいれた行進に見られる。この状況を 16 世紀の画家ｱﾝﾄﾞﾚｱﾏﾝﾃｰﾆｬ(Andrea Mantegna)が描かれている。[29]

---

[20] Tapestry of Bayeux
[21] Sorah Blick、*op.,cit.,* p.705.
[22] Gregolius1 世：法王としての在位 590-604 年。
[23] Richard Krautheimer, *Rome ： Profile of a City 312-1308,* Princeton, N.,J.,1980. P.XX
[24] Edward James Martin,*A History of the Iconoclastic Controversy,* Society for Promoting Christian Knowledge, 1978. p.247,Charles(768-814)は聖遺物は聖画像を超える物であるとした。
[25] St.Firmin、4 世紀の殉教者。ﾌﾗﾝｽへの布教に赴き、Amiens で殉教したとされる。
[26] Michael Camille,*The Gothic Idle Ideology and Image-making in Medieval Art,* Cambridge,1989.
[27] Cybele= the mother goddess
[28] The Sibylline Book
[29] Andrea Mantegna The Introduction of the Cult of Cybele in Rome(National Gallery, London)

3. 文献

C.Horstmann ,ed., *The Three Kings of Cologne,* Early English Text Society Original Series,1886, Kraus Reprint Co., 1975.

David, H., Farmer, *The Oxford Dictionary of Saints,* Oxford univ., press, 1978.

Debra J., Birch, *Pilgrimage to Rome in the Middle Ages Continuity and Change*, The Boydell Press,1998.

Diana Webb, *Medieval European Pilgrimage, C.700-C.1500,* Palgrave, 2002.

Edward James Martin, *A History of the Iconoclastic Controversy,* Society for promoting Christian Knowledge,1978.

Georg Jenal, *Erzbischof Anno II von Koln(1056-75) und sein Politisches wirken*, Anton Hiersemann Stuttgart,1975.

Horst Fuhrman, *Germany in the High Middle Ages: C.1050-1200, Cambridge Medieval Text Book*, Cambridge, 1986.

Herbert L., Kessler & Johanna Zacharias, *Rome 1300: On the Path of the Pilgrim,* Yale Univ., Press, 2000.

Jacques Stiennon et Rita Lejeune, ed., *Plan De Cologne Au 11e Siecle, Rhine-Meuse Art et Civilization 800-1400, Cologne/Bruxelles, 1972.*

Jane Martineau, ed., *Andrea Mantegna,* Thames & Hudson,1992.

Jesse Russell, ed., *Anno II, Archbishop of Cologne,* Bookrika Publishing.

J.,J.,M., Timmers, *A Handbook of Romanesque Art*, Nelson,1965.

M.,Angheben, J.,Baschet, B.,Boerner,*Art Medieval Les voies de l'espace liturgique,* Picard 2010.

Matthew Paris *Chronica majora* 2., Rerum Britannicarum Medii Aevi Scriptores (Rolls Series)57.,

Michael Camille,*The Gothic Idle Ideology and Image-making in Medieval Art,* Cambridge,1989.

Nancy Netzer,Virginal Reinburg, ed., *Fragmented Devotion medieval objects from the Schnutgen Museum Cologne,* Boston College,2000.

Norbert,Nussbaum, *German Gothic Church Architecture*, Traslated, Scott,Kleager, Yale Univ., Press,2000.

Richard Krautheimer, *Rome : Profile of a City 312-1308,* Princeton, N.,J.,1980.

Sorah Blick and Rite Tekippe, ed., *Art and Architecture of Late Medieval Pilgrimage in Northern Europe and the British Isls,* Brill, 2005.

Thomas Campbell, *The Catholic Encyclopedia Vol. I.*, Robert Appleton Company, 1907.

Willibald Sauerlander, *Gothic Sculpture in France 1140-1270,*Harry N., Abrams Inc., 1970.

Wim Vroom,(translated Elizabeth Manton), *Financing Cathedral Building in the Middle Ages TheGenerosity of the Faithful* ,Amsterdam Univ., Press,2010.

Wolfgang Grape, *The Bayeux Tapestry Monument to a Norman Triumph,* Prestel,1994.